

## 【日本歯周病学会指導医症例報告】

年　月　日

所属\_\_\_\_\_ 氏名\_\_\_\_\_

## ●治療経過

○年○月～○月 口腔掃除指導、スケーリング・ルートプレーニング

○年○月～○月  $\frac{765}{76} \quad \frac{567}{567}$  咬合調整

○年○月～○月

## ●

患者 ○歳 ○性

## ●

初診 ○○○○年○月○日

## ●

主訴 ○○○○○○○○○

## ●

全身既往歴 平成○年から○○病にて○○と○○を服用、コントロールは良好

## ●

口腔既往歴 ○年前6の歯肉が腫脹。近医にて歯周炎を指摘され、口腔掃除指導とスケーリングを受けた。リコールの必要性は指摘されていたが、治癒したと考え放置していた。1ヶ月前から6の動揺を自覚し、近医を受診したところ、8本を抜歯し上下フルブリッジによる固定が必要と言われ、治療方針に疑問を持ち当院受診した。

## ●口腔内所見

\*歯周ポケット・動搖度（別紙に日本歯周病学会指定の「症例報告 検査データ表」「症例報告 検査チャート表」を作成する。）

## ●メインテナス時の状態

\*歯周ポケット・動搖度（別紙に日本歯周病学会指定の「症例報告 検査データ表」「症例報告 検査チャート表」を作成する。）

## ●原因因子

## ●メインテナス時の問題点とその対応

## ●診断 ○○○○○○○

## ●考察・まとめ

## ●治療計画および変更点

留意点：患者は歯の保存を強く希望し、ほとんどの歯が健全歯であることから、歯の切削に対して、抵抗が強い。

## 1. 歯周基本治療

口腔掃除指導、スケーリング・ルートプレーニング

 $\frac{3}{3} + \frac{3}{3}$  暫間固定 $\frac{765}{76} \quad \frac{567}{567}$ 

## 2. 再評価

## 3. 修正治療

歯周外科手術  $\frac{\square}{\square}$  ○○○○○法 ○根分割抜歯  
 $\frac{\square}{\square}$  ○○○法MTM  $\frac{\square}{\square}$   $\frac{3}{3} + \frac{3}{3}$  歯間離開の改善  
最終捕綴  $\frac{\square}{\square}$  ○○  $\frac{\square}{\square}$  ○○

## 4. メインテナス

## 【変更点】

3 + 3 暫間固定は炎症の改善により動搖

減少が見られたため行わなかった